

# 院内歴史の里 案内MAP



至国道7号線

日南工業

長沼製作所

横根

黒湯

①摩利支天

旧佐々木家住宅

仁賀保大橋

院内診療所

②泉沢不動尊

③一の鳥居跡

④七高神社

●⑤皆川宗海の墓

由利院内郵便局

⑥禅林寺

●⑦十王堂

⑧観音様

⑨塩ノ道

院内小学校

⑩陽山寺

⑪産業遺産  
院内油田やぐら

⑪産業遺産  
院内油田林'北'ガ'ク'棟

⑫山根館跡

⑬高森眺望台

⑭石菴山

至矢島

至杉山

至小出

院内歴史の里保存会  
(にかほ市院内)



### ①摩利支天

室沢と院内の山の境界争いの時、戦死した木村弥七家の先祖を祀ったのである。摩利支天とはインドの神様で目に見えない像のない日光や月光のようなものを神格化したものという。障難を除き、利益をもたらす神という。



### ②お不動様

泉沢の不動様と云えば院内の裏祭りとして七月二十七日、大いに賑ったものである。天長年間に真言宗の寺として加葉庵と号し字メカケに建立、不動明王を本尊とした。後に葉泉が湧き眼病の神様として、知られた。



### ③一の鳥居跡

通称「おさかけ」という。賢木の立つ処、お賢木か又は畷いの幣かけが訛ったものである。大昔、神社の入り口として一の鳥居があった。正月行事の占い場であり賢木の松を東西に立てメ縄を張り幣、松、ゆずり葉等で作幣、天候、世の動向を占う。



### ④七高神社

天平十八年（七四六）ころ、鳥海山に七高山が祀られ、後、千百二十年、由利維安が山根館に拠り、院内の国一殿に神社を祀ったといわれる。又由利氏の跡に、大井伯耆守が応仁元年一郷、五三ヶ村の守護神にしたという。祭神は現在大物忌、少名彦名命、薬師如来、大国主命、須佐男命、天照皇大神、一言主命が祀られている。



### ⑤禅林寺

禅林寺は天長年間院内字メカケに真言宗で不動様を祀り、応徳二年に字上杉山に曹洞宗として開山、明応三年に字メカケの浄光寺跡に移転したという。仁賀保家の菩提寺として禄を頂き現在地に移転。加賀の大乗寺が本寺で大本山永平寺、総持寺が總本寺である。又、仁賀保区内に末寺末庵十五ヶ寺、東京に一ヶ寺を持つ小本寺である。



### ⑥十王堂

明治の廃佛毀釈まで寒沢川沿いに真言宗の極楽寺があった。この寺の護りとして十王が祀られお堂が今の水源の上にあった。木像の十王は禅林寺に納められ、堂の横に院内の命の源の水が湧いていた。別名「丹後清水」とも言う。



### ⑦陽山寺

院内字大門に卯塔という昔からの墓地がある。最初に、成田八郎エ門勝家という武士が寺を建立した。後に、仁賀保の殿様、小笠原大和守が天正四年に現在の小国字南野に建立し、南は陰陽の陽であるから円通山陽山寺と称し、真言宗から曹洞宗に改宗した。山門の仁王様と裏山の坪庭は県内でも有名である。



### ⑧観音様

馬頭観音と云い、字大門にある。昔、上杉山にあった禅林寺の南約百米ぐらいの小山に建立されていたという。細矢弥平次の先祖が現在地に移し「六角堂」と称していた。馬を飼っていた人々の信仰を集めた。



### ⑨塩ノ道

字大門の観音様の右手から旧矢島道がある。塩ノ道と言い、山根館の北側を通り長根伝いに巾山を越え矢島への旧道である。



### ⑩七高神社堂庭跡

院内には堂ノ上と童子と堂庭とあるが童子は堂下か堂尻の替えられた可能性がある。堂庭は字赤坂沢の高い所に在り、字赤坂と字早坂を界としている。応仁元年、山根館に拠った仁賀保の初代の殿様が国一殿より山根館の真向かいに移したと云われる。



### ⑪院内油田跡

明治十五年小国の有志が手堀りで始めた。大正十二年、中野石油、日本石油が小国油田に成功し、昭和五年、旭石油が院内油田を掘り当てる。昭和十五年産油量日本一を記録した。油井の数、大正の末院内、小国の山に三九四本、昭和に入り桂坂九二本、中の沢百十四本の数という。昭和十七年に帝国石油となり油量が低下する。昭和四十六年秋田石油の経営となり平成七年その使命が終わったのである。



### ⑫山根館跡

応仁元年(1467)に仁賀保の祖、大井伯耆守友拳が信濃の国から入部し、翌年応仁二年に山根城を改修して入城以来、七代目拳誠が慶長七年(1602)に、常陸の国に国替えを命じられるまで、七代135年間にわたり居城した中世の山城で、七高神社や禅林寺を氏神、菩提寺とした。



### ⑬高森眺望台

旧院内村からにかほ一体、日本海まで眺望できる台地が高森林道から巾山を通り矢島に至る途中にある。標高二五〇米ぐらいの小さい山で戦前よく草刈り若勢の憩いの場であり、小学生の遠足によく登った。



### ⑭石竜山

昔、矢島から仁賀保にお石という妊婦が山越えて来た。石竜山の前で急に産気づき赤ちゃんを生んだという。一人の老婆が何処からかきて介抱し、女は元気になり子を連れて用件を果たした。老婆は石竜山様であったという。安産の神として信仰を集め今日に至っている。近く乳母石、沢一つ奥に大石様がある。



### ⑮皆川宗海の墓

禅林寺の仁賀保家の墓地の隣にある。本荘藩の学者で代官を務めた人物、院内には可成り関係のある人々がいたらしい。代官時代に冬師山や下坂の新道、白雪川の水の争訟で田抓、三森、百目木、三日市等に関わった史料がある。院内に寺子屋を開いたと云われ、三浦錦聚跡地に碑がある。